

金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う試掘調査概要

鞍川D遺跡

鞍川中B遺跡

2010年3月

氷見市教育委員会



卷首写真1 調査区遠景（西から）



巻首写真2 調査区遠景（東から）

金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う試掘調査概要

鞍川 D 遺跡

鞍川中B 遺跡

2010年3月

氷見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた靈峰立山を仰ぐ氷見市は、古くから海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。それら、郷土に残る文化財は先祖より受け継がれてきたものであり、私たちはあらためてその史的、文化的価値を再認識しながら、末永く子孫に引き継いでゆかねばなりません。

このたび新たな氷見市民病院の建設地となった鞍川地区は、地名の由来に木曾義仲にまつわる伝承が残り、また室町・戦国時代の国人土豪、鞍河氏の本拠地と伝えられる地でもあります。

調査の対象となった鞍川D遺跡と鞍川中B遺跡では、平成15年から16年にかけて、一般国道415号道路改良に先立つ発掘調査を実施し、多くの成果をあげています。鞍川D遺跡では、鎌倉時代の井戸跡が発見され、その井戸から、井戸側に転用された平安時代末頃の丸木舟が出土しました。調査区の周囲には鎌倉時代の集落が広がっているものと考えられます。鞍川中B遺跡では、弥生時代中期の川跡が発見され、たくさんの土器のほか、樹皮製の曲物や石器が出土しました。また中世から近世の溜池の跡が見つかっています。

今回実施した試掘調査によっても、遺跡のさらなる広がりを確認することができました。試掘調査で得られた情報はわずかですが、鞍川の歴史に思いを馳せる手がかりとしていただければ幸いです。

おわりに、今回の試掘調査とその後の協議にあたってご支援、ご尽力いただいた方々に、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

氷見市教育委員会

教育長 前辻 秋男

例　　言

- 1 本書は、平成21年度に実施した富山県氷見市鞍川地内に所在する鞍川D遺跡・鞍川中B遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査は、金沢医科大学氷見市民病院建設事業に先立ち、氷見市教育委員会が実施した。
- 3 調査費用は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
- 4 調査対象面積は約30,250m²、発掘調査面積は約700m²である。
- 5 調査期間は、平成21年5月18日より平成21年5月22日（実働5日）である。
- 6 調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習課に置き、副主幹鈴木瑞廣・大野究、学芸員廣瀬直樹が調査事を担当し、課長實住哲郎が総括した。
- 7 調査および本書の執筆・編集は、廣瀬が担当した。また遺物の実測・トレイスは廣瀬を中心となり、後述する整理作業員が行った。
- 8 空中写真的撮影は、株式会社エイ・テックに委託した。
- 9 出土遺物と調査に関わる資料は、氷見市教育委員会生涯学習課が保管している。
- 10 遺跡の略号は以下のとおりとした。
鞍川D遺跡：KRKD　鞍川中B遺跡：KRKN-B
- 11 調査参加者は次のとおりである。なお、発掘作業員の派遣は社団法人富山県シルバー人材センター連合会に委託し、氷見市シルバー人材センターから派遣を受けた。
- 発掘作業員：後山健作・小島忠夫・小島敏之・下野孝男・西田　実・細野豊治・
山下　巽・山下　進・横田　清（以上、氷見市シルバー人材センター）
整理作業員：三矢恵京・日南　静
- 12 調査・本書作成にあたり、下記の方々・機関から多大なご教示・ご協力を得た。記して感謝申し上げる。
- 富山県教育委員会生涯学習・文化財室・富山県埋蔵文化財センター・氷見市病院事業管理室
氷見市立博物館・有限会社桜打設備

目 次

第1章：遺跡の環境.....	1
第1節：地理的環境.....	1
第2節：歴史的環境.....	1
第2章：調査の概要.....	3
第1節：調査に至る経緯.....	3
第2節：調査の経過.....	3
第3章：調査の成果.....	5
第1節：鞍川D遺跡.....	5
(1) 遺跡の概要.....	5
(2) 調査の状況.....	6
(3) 出土遺物.....	8
第2節：鞍川中B遺跡.....	12
(1) 遺跡の概要.....	12
(2) 調査の状況.....	13
(3) 出土遺物.....	14
第4章：まとめ.....	15
引用・参考文献.....	16
報告書抄録.....	29

表 目 次

第1表 鞍川D遺跡（病院建設予定地） 基本層序.....	6
第2表 鞍川D遺跡（宅地予定地） 基本層序.....	6
第3表 鞍川中B遺跡 基本層序.....	13

挿図目次

第1図	周辺の主な遺跡	2
第2図	金沢医科大学氷見市民病院開発区域平面図	4
第3図	鞍川D遺跡試掘調査概要図	7
第4図	鞍川D遺跡遺物実測図（1）	9
第5図	鞍川D遺跡遺物実測図（2）	10
第6図	鞍川D遺跡遺物実測図（3）	11
第7図	鞍川中B遺跡試掘調査概要図	13
第8図	鞍川中B遺跡遺物実測図	14
第9図	開発区域周辺遺跡分布図	17

写真図版目次

巻首写真1	調査区遠景（西から）	国版7	1. トレンチ完掘状況（T38）
巻首写真2	調査区近景（東から）		2. 湿地跡堆積状況（T38）
図版1	遺跡周辺空中写真（1947年米軍撮影）		3. トレンチ完掘状況（T41）
図版2	遺跡周辺空中写真（1963年撮影）		4. 湿地跡堆積状況（T41）
図版3	1. 調査区遠景（西から） 2. 調査区近景（西から）		5. 鞍川D遺跡（宅地予定地）近景 (西から)
図版4	1. 調査区遠景（東から） 2. 調査区近景（北から）		6. 宅地予定地試掘坑完掘状況（T1） 7. 宅地予定地試掘坑完掘状況（T5）
図版5	1. 鞍川D遺跡調査前近景（北西から） 2. 鞍川D遺跡調査前近景（北東から） 3. 遺構検出状況（T14・溝か） 4. 遺構検出状況（T16・土坑か） 5. 遺構検出状況（T18・土坑） 6. 遺構検出状況（T19・土坑か） 7. 遺構検出状況（T22・土坑） 8. 遺構検出状況（T23・土坑）	国版8	8. 宅地予定地試掘坑 落ち込み検出状況（T7） 1. 鞍川中B遺跡調査着手前近景 (東から)
図版6	1. 遺構検出状況（T26・土坑） 2. 遺構検出状況（T30・土坑） 3. 遺構検出状況（T32・ピット） 4. 遺構検出状況（T34・土坑か） 5. トレンチ完掘状況（T14） 6. トレンチ完掘状況（T23） 7. トレンチ完掘状況（T28） 8. トレンチ完掘状況（T33）		2. 遺構検出状況（T42・溝か） 3. 遺構検出状況（T42・ピット） 4. 遺構検出状況（T42・土坑） 5. トレンチ完掘状況（T45・湿地跡） 6. トレンチ完掘状況 (T46・手前側が湿地跡) 7. 作業風景 8. 作業風景
		国版9	遺物写真（1）
		国版10	遺物写真（2）
		国版11	遺物写真（3）

第1章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和29年までに旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約5万4千人である。市域は、北・西・南の三方が標高300~500mの丘陵に取り囲まれ、東側約20kmの海岸線をもって富山湾に面している。

鞍川D遺跡・鞍川中B遺跡が所在する鞍川地区は、氷見市のほぼ中央を流れる上庄川下流南岸に位置する。河畔に平野が開け、背後には丘陵山地が連なる。上庄川は、氷見市南西端の大釜山(501.7m)に発し、約22kmで富山湾に注ぐ河川であり、氷見市では長さ・流域面積ともに最大である。

鞍川地区の北側に当たる上庄川下流左岸の加納地区の平野には、弥生時代から古代にかけて加納潟(仮称)という潟湖が所在したと推定される。加納潟は南北約1km、東西約0.5kmと推測され、さらに北側の余川川下流域に広がる可能性がある。

鞍川D遺跡は、上庄川下流右岸の平野、標高約4mに立地し、背後には丘陵が迫る。鞍川中B遺跡は、上庄川の支流、野手川の東側に立地し、標高は約3.5mである。鞍川では昭和30年代に土地改良が実施され、整然とした水田が広がっている。調査対象地の北側には、氷見北ICのアクセス道路として整備された一般国道415号(通称鞍川バイパス)が通る。

第2節 遺跡の歴史的環境(第1図)

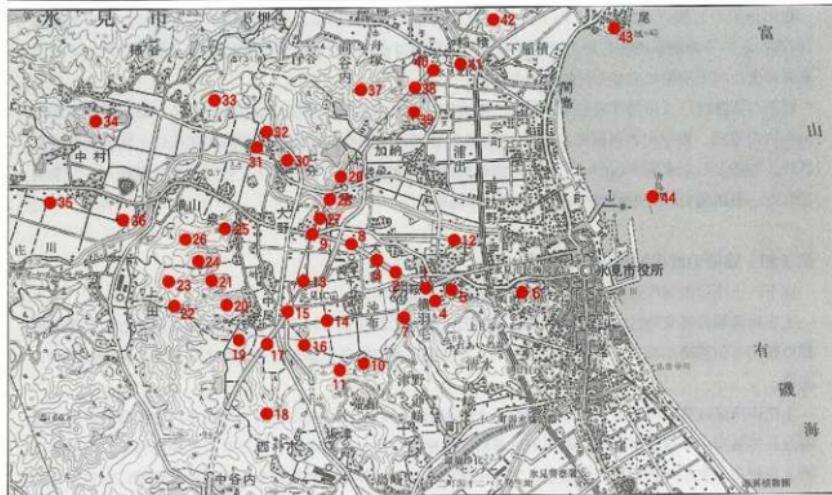
以下、上庄川流域の遺跡について下流域を中心に概観する。

上庄川流域の縄文時代の遺跡は上流丘陵部と下流域に散在している。下流域の縄文遺跡として縄文後期の鞍川寺田遺跡がある。有磯高校のグランド造成工事で縄文土器が出土したというが、詳細は不明である。

上庄川流域は弥生時代に入って積極的な土地利用が行われていったと考えられる。弥生時代中期の遺跡として鞍川中B遺跡がある。鞍川中B遺跡は加納潟に流れ込む流路のほとりの低地に営まれた遺跡と考えられる。弥生時代後期の遺跡として鞍川金谷遺跡が、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡として鞍川横羽毛遺跡、糠塚南遺跡、沖布A遺跡がある。いずれも加納潟を囲む丘陵縁辺部から微高地に営まれた遺跡である。弥生時代終末期にはいったん丘陵上へ生活圏が移動したのか、朝日山丘陵上に朝日大山遺跡が営まれた。

古墳時代には、上庄川流域から加納潟周辺にかけての丘陵上に多くの古墳が築かれた。その数は、上庄川流域で31群183基、加納潟周辺で6群71基となり、氷見市内で最も古墳が集中する地域である。これはこの地域が、氷見市内で最も広く安定した平野が開け農業生産に適していたこと、白が峰越えのルートをはじめとする能登と結ぶ街道がこの谷を通っていたことなどが要因と推測される。だが鞍川南方の丘陵上を見ると、丘陵の反対側の布勢湖(現在の十二町潟)に面した朝日山周辺には古墳群が立地するものの、加納潟に面する鞍川側では古墳の存在は確認されていない。

古代・中世においても上庄川中下流域には遺跡が広く分布している。中世には上庄川流域から十二町潟周辺を範囲とする阿努莊という庄園があり、上庄川の水運、能登を結ぶ陸運などの要素を背景として古墳時代に引き続いて積極的な開発が行われていたと考えられる。鞍川D遺跡では13世紀代の集落が、鞍川中B遺跡では、中世から近世の溜池状構造が見つかっている。なお、室町・戦国時代には、国人士豪鞍河氏が現在の鞍川周辺を本拠地としていたとされる。



- 1 鞍川D遺跡(古代・中世・近世)
 2 鞍川中B遺跡(弥生・古代・中世・近世)
 3 鞍川中A遺跡(古代・中世・近世)
 4 鞍川E遺跡(後称・時期不明)
 5 被川寺田遺跡(鐵文後期)
 6 朝日大山遺跡(弥生・中世)
 7 鞍川横羽毛遺跡(弥生後～古墳前期)
 8 K B - 2 遺跡(古代)
 9 K B - 3 遺跡(古代)
 10 沖布A遺跡(弥生後～古代)
 11 沖布C遺跡(古代・中世)
 12 鞍川金谷遺跡(鐵文中期・弥生後期・古墳)
 13 大野江瀬遺跡(弥生・古墳・古代・中世・近世)
 14 沖布B遺跡(古代)
 15 神明北遺跡(古代・中世)
 16 鹿屋南遺跡(鐵文・古代・中世)
 17 中尾新保谷内遺跡(古代・中世)
 18 中尾高塚古墳群(古墳後期)
 19 鹿屋尾鹿寺跡(古代・中世)
 20 中尾禪崎古墳群(古墳後期)
 21 中尾吉城古墳群(弥生終～古墳初か)
 22 千久里城跡(南北朝・戰国)
 23 上田古墳群(弥生終～古墳初・古墳中期)
 24 泉谷内口古墳群(古墳後期)
 25 泉往易古墳群(古墳前期・中世)
 26 泉古墳群(古墳前～後期)
 27 大野中遺跡(古代)
 28 七分一堂口遺跡(中世)
 29 加納南古墳群(古墳中～後期)・加納城跡(中世)
 30 七分一古墳・古墓(古墳・中世)
 31 七分一B遺跡(古代・中世)
 32 七分一遺跡(弥生後～終・古墳後期)
 33 梶谷土谷山古墳群(古墳中～後期)
 34 中村城跡(戰國)
 35 中村天場山古墳(古墳前期)
 36 中村大橋遺跡(古代・中世)
 37 木谷城跡(南北朝)
 38 稲積天坂遺跡(弥生・古代・中世・近世)
 39 加納蛭子山古墳群(古墳初～後期)・加納横穴群(古墳後～飛鳥白鳳)
 40 鶴ヶ坂北遺跡(古代・中世・近世)
 41 福根川口遺跡(鐵文・飛鳥白鳳・古代・中世)
 42 稲積才オヤチ古墳群(古墳前～中期)
 43 阿尾城跡(弥生・中世・近世)
 44 唐島遺跡(中世・近世)

第1図 周辺の主な遺跡 (S=1/50,000)

第2章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯（第2図）

老朽化した現在の氷見市民病院に替わる新たな氷見市民病院の建設計画が立案されて以来、氷見市教育委員会は、市民病院建設担当部局側との間で、埋蔵文化財包蔵地に関する協議を繰り返してきた。当初答申された複数の候補地に対しても、教育委員会として意見を出し、できるだけ埋蔵文化財に影響が出ないよう協力を要請してきた。

平成20年3月には、企画広報室より一般国道415号（鞍川バイパス）周辺の鞍川D遺跡・K.B-3遺跡・大野江瀬遺跡について照会があったため、それぞれの遺跡について詳細を回答した。特に鞍川D遺跡については、遺跡が現在の範囲外に広がると推測されるため本発掘調査を要する可能性が高いとの見解を伝えた。

平成20年度に入り、鞍川D遺跡およびその周辺地が新市民病院の候補地になったとの情報が教育委員会に寄せられたが、教育委員会側との正式な協議等は行われないままであった。そのため、平成20年9月25日付で企画広報室長に対して鞍川地内の埋蔵文化財保護についての協力を書面にて促した。

結果として、鞍川地区が正式に新市民病院候補地となったが、当初の予定地よりも一区画西側にずれることで、鞍川D遺跡だけではなく、鞍川中B遺跡に一部かかることが判明した。鞍川D遺跡、鞍川中B遺跡、両者ともに、鞍川バイパス建設に先立つ本発掘調査の結果、遺跡が周辺に広がる可能性が予測されていた。そこで氷見市教育委員会では、平成21年度に国庫補助金の交付を受けて周辺の試掘調査を実施するため、調整・準備を開始した。

第2節 調査の経過

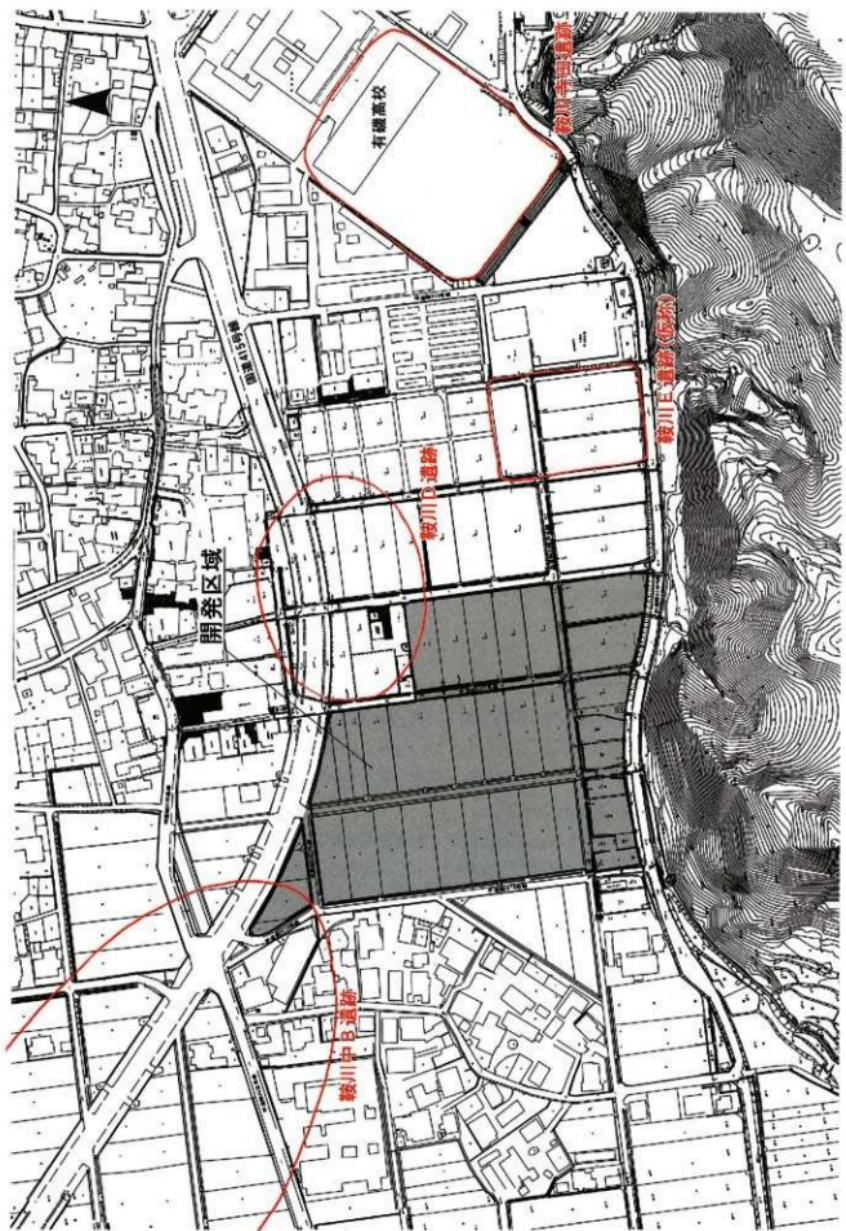
試掘調査は、平成21年5月18日から5月22日まで、機械力および人力によって実施した。調査対象地は、建設予定地全体で、面積は約30,250m²である。試掘調査は、遺跡が所在する一般国道415号（鞍川バイパス）の縁辺から開始し、順次調査区を広げていった。また、合わせて市民病院用地の代替地とされた国道北側の宅地予定地についても調査対象とした。最終的には、試掘トレンチ計46基、試掘坑計11基を設定し、発掘面積は約700m²となった。

整理作業は、調査終了後に着手し、遺物の洗浄・実測等を実施した。その後、平成21年12月より本文の執筆を開始した。年が明けた平成22年1月から、トレース作業、遺物写真の撮影等を実施した。

試掘調査で遺構の広がりが確認された範囲については、試掘調査終了後直ちに氷見市病院事業管理室と保護に関する協議を実施した。そのうち鞍川中B遺跡については本調査が必要と判断されたため、本調査に関する調整を行った。

鞍川中B遺跡の本調査は、平成21年10月26日から開始し、11月20日に終了した。調査対象面積は約336m²である。遺構としてはピット・溝・土坑などを検出した。遺物は、中世を主体とし、古代から近世のものが出土した（氷見市教委2010）。

なお、市民病院建設予定地周辺では市道鞍川靈峰線の建設なども計画されているため、平成21年11月30日には周辺の分布調査を実施した。その結果、新たに土器片の散布を確認することができた。遺物の散布は、鞍川D遺跡と鞍川寺田遺跡に挟まれた約5,300m²の範囲に見られる。この範囲を鞍川E遺跡（仮称）とした。



第2図 金沢医科大学水見市民病院開発区域平面図 (S=1/3,000)

第3章 調査の成果

第1節 鞍川D遺跡

(1) 遺跡の概要

鞍川D遺跡は、平成6年度の氷見市教育委員会の分布調査で発見された遺跡である。分布調査では、須恵器2破片、珠洲焼2破片、瀬戸1破片、越中瀬戸1破片、近世陶器1破片などが採集されており、古代・中世主体の遺跡と推定された。

一般国道415号（鞍川バイパス）建設に先立つ試掘調査は、平成13年度に実施した。この試掘調査の結果、調査対象地西側で遺構を確認した。一方の遺跡東側では、過去の土地改良の影響を強く受けしており、造成土が厚く堆積している。造成土の下層では遺構を確認していない。遺物は須恵器・珠洲焼・近世陶磁器など48点が出土し、そのうち42点が本発掘調査対象となる遺跡西側での出土である。

試掘調査の結果に基づき、平成15年度には本発掘調査を実施した。この調査では、井戸跡、流路、溝、土坑などの遺構が検出された。遺物としては珠洲焼や土師器皿、青磁、白磁、山茶碗など13世紀前半を中心に、12世紀後半から13世紀代といっぱいの遺物が出土している。建物跡等は見つかっていないが、いずれも13世紀前半の構築と考えられる井戸跡が3基検出された。調査区の外側に向けて平安時代末から鎌倉時代初め頃に営まれた集落が広がっていると推測される。

検出された3基の井戸跡（SE01・SK02・SK07）のうち、SE01では丸木舟を転用した井戸側が用いられた。井戸内からは珠洲焼や土師器、漆器、曲物などのほか祭祀具と考えられる舟形木製品、木札状木製品、箸状木製品などが出土している。また井戸内の堆積物の自然科学分析では多数のイネとモモ、カキ、ソバなどの有用種実が確認されており、これらは投棄もしくは埋納された可能性がある。もう1基の井戸跡SK02では、井戸を埋め戻す際に井戸側材を抜き取ったと考えられ、抜き取った井戸側材の一部と考えられる板材が2枚重ねて埋納されていた。また井戸底の中央には節を抜いた竹筒が突き立てられていた。この竹筒は、井戸を埋め戻す際に井神の通り道を確保するために設置される「息抜き」と考えられる。SE01で出土した舟形木製品・木札状木製品などの木製祭祀具、SK02での井戸側の抜き取りとその埋納、竹筒による「息抜き」の設置などは井戸に対する信仰の表れと推測される。

さて、SE01で井戸側に転用されていた丸木舟は、平安時代の終わり頃（12世紀代）に建造されたもので、舟底に見られるフナクイムシなどによる食害痕から海を主な活躍の場としていたと考えられる。補修を受けつつ使用されたこの丸木舟は、最終的には13世紀前半に井戸側に転用された。用材にはスギが使われており、推測される全長は約10m。単材の丸木舟としてはかなり大型の部類に入る。

この井戸側を丸木舟と判断した根拠が各部に施された加工である。船渠を通したと推測される方形の穴、舷側上部の切り欠き、埋木、早緒や櫓綱を縛った穴、割れを補修したカスガイなど、断片的であるが当時の丸木舟の構造を伝えてくれる資料である。

以上、鞍川D遺跡は、12世紀後半から13世紀代を主体とする遺跡である。遺構の分布状況からすると、遺跡の東側からその周辺にかけて集落が広がっているものと考えられる。

今回の試掘調査の調査対象地は、鞍川D遺跡の南西側一帯である。平成15年度の本発掘調査の結果からすると、集落自体は遺跡東側を主体とすると推測されるが、遺跡の広がりを確認するため病院建設予定地全体を調査対象とした。なお、堤跡と伝わる南側の高台は調査対象から除外した。

(2) 調査の状況（第3図・第1・2表）

鞍川D遺跡及び、周辺部に41本の試掘トレンチを設定し、調査を実施した。調査の結果、調査対象地の広い範囲で遺構が検出された。遺構面である地山（Ⅲ層）は褐灰色砂や褐色粘質土などで、地山が耕作土直下に検出される地点もあったが、部分的に遺物包含層（Ⅱ層）の残存も確認できた。遺物は、耕作土層・遺物包含層を中心に116点が出土した。中世珠洲焼・中世土師器などがあり、おおむね12世紀後半から13世紀前半を中心とする。この調査により、鞍川バイパス建設に先立つ本調査で予測していたとおり遺跡の範囲は南側と西側に大きく広がることとなった。

遺構検出面は、前述したとおり耕作土直下で検出される地点もあり、その深さは10～30cm程度と非常に浅かった。これは、調査対象地の大部分が昭和30年代に実施された土地改良により大きく削平されているためと推測される。この様相は平成15年度の本発掘調査でも見られた傾向であった。検出された遺構は、溝・土坑・ピットなどである。なお、調査区の北西側、鞍川中B遺跡との間の部分には湿地帯が広がっていたと考えられる。

宅地としての利用が予定されている鞍川D遺跡北側の病院用地代替地では、試掘坑を11基設定し、調査を実施した。こちらの調査区でも地山の砂層を検出したが、遺構はほとんど確認できなかった。ただ、調査対象地の北西側で粘質土層の落ち込みが確認でき、その中から複数の中世珠洲焼の窯破片、中世土師器皿が出土した。そのほか、耕作土からも中世珠洲焼・中世土師器などが出土した。

I層	耕作土	10～30cm	にぶい黄褐色砂質土・灰黄褐色砂質土
II層	遺物包含層	0～60cm	にぶい黄褐色砂質土・暗褐色砂質土
III層	遺構面・地山		褐灰色砂・にぶい黄褐色砂・褐色粘質土・灰黄褐色砂
	遺構埋土		黒褐色砂質土・黒褐色砂・灰黄褐色シルト・黒褐色粘質土
	湿地帯埋土		黄灰色砂（黒褐色シルト混じる）・明黄褐色シルト・にぶい黄褐色シルト・褐灰色シルト

第1表 鞍川D遺跡（病院建設予定地） 基本層序

I層	耕作土	20～40cm	にぶい黄褐色砂質土
II層	遺物包含層	0～30cm	褐灰色砂質土
III層	地山		褐色砂
	落ち込み埋土		黒褐色粘質土

第2表 鞍川D遺跡（宅地予定地） 基本層序



第3図 鞍川D遺跡試掘調査概要図 ($S=1/2,000$)

(3) 出土遺物 (第4・5・6図)

病院建設予定地の調査では、古代須恵器・中世土師器・中世珠洲焼・近世越中瀬戸・木製品・金属製品など116点が出土した。そのうち35点を図示した。

1・2は古代須恵器である。1は杯蓋で、外面に自然釉がかかる。2は壺類の体部破片で、外面にケズリ調整、内面に同心円状當て具痕が残る。

3～6は非口クロ成形の中世土師器皿である。3は口径9.0cm、器高1.9cm、4は口径8.6cm、器高1.95cmを測る。どちらも13世紀頃のものか。5は口径10.2cm、6は口径14.8cmを測る。

7～31は中世珠洲焼である。

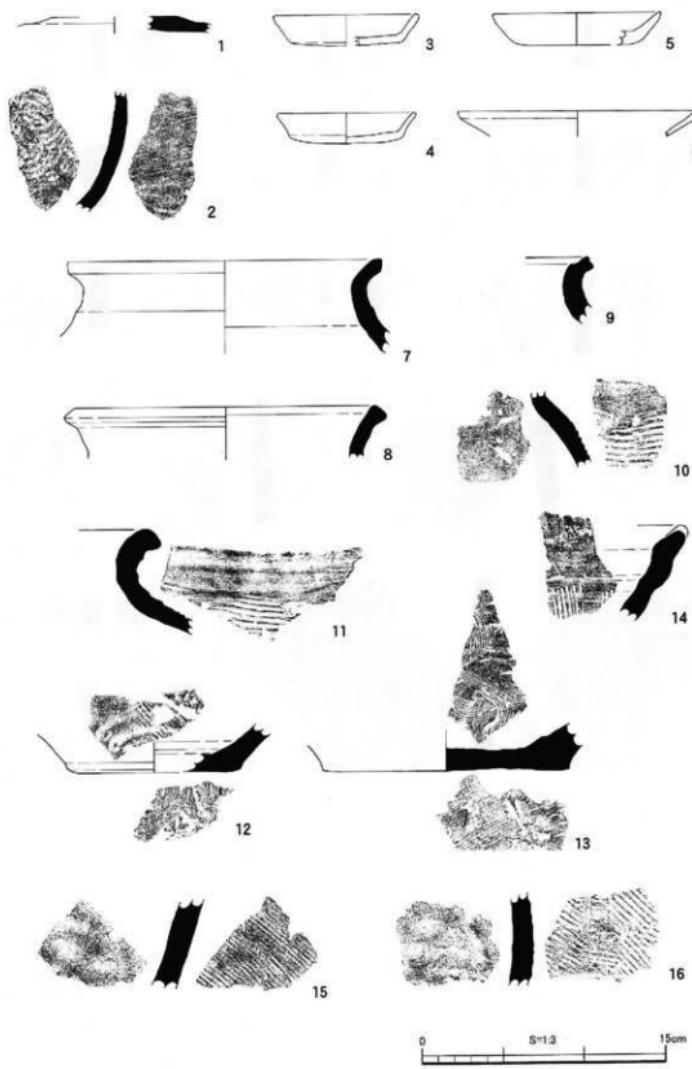
7・8・9は壺類の口縁部。7は口径19.6cmを測り、口縁外端に面を取る。吉岡編年でI期頃、12世紀後半のものか。8は口径18.5cmを測る。9は口縁端部を屈曲させつまみ出したもの。8・9はいずれも吉岡編年I～II期、12世紀後半から13世紀前半のものと考えられる。10は壺の頸部破片である。

11は壺の口縁部で、吉岡編年I～II期、12世紀後半から13世紀前半のものと考えられる。

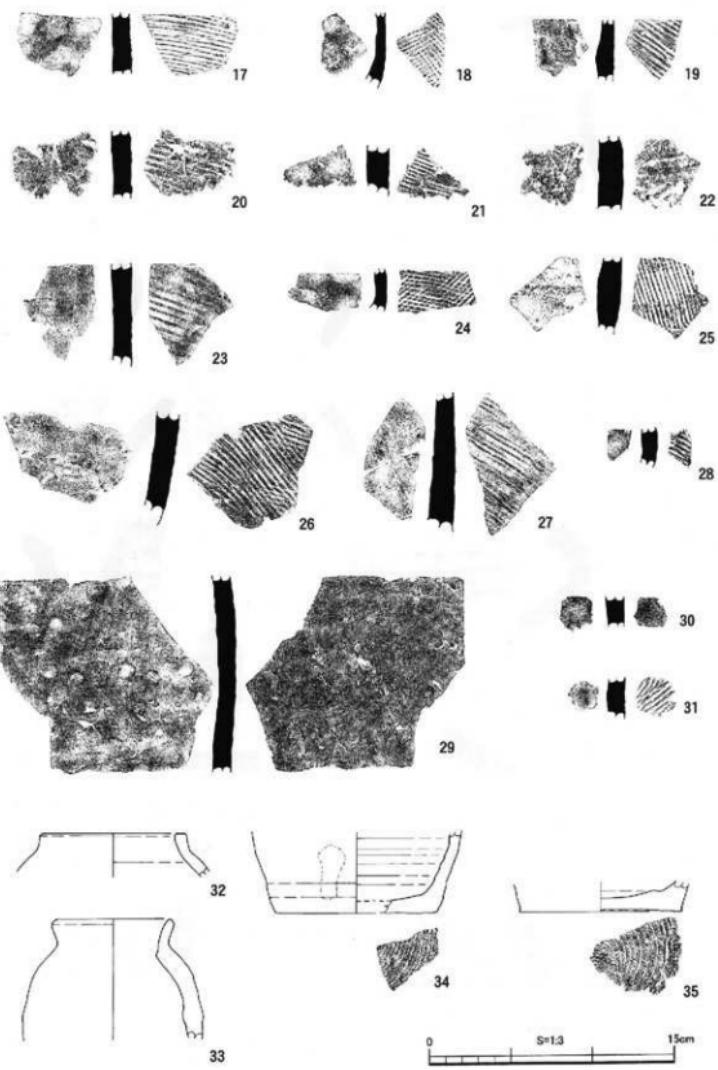
12～14は片口鉢。12は底径10.8cmを測る。内面には放射状にならない方向の卸目が確認できる。13は底径15.4cmを測り、底外面に静止糸切り痕が残る。内面に1単位10本の原体を用いた加飾的な卸目が施される。12・13ともに吉岡編年II期、13世紀前半のものと考えられる。14は口縁内端に面を取ったもので、吉岡編年でV期、14世紀末～15世紀前半のものと考えられる。

15～31は壺壺類の体部破片である。22は外面に装飾的なハケメが残るが、摩滅して状態は悪い。23は内外面に炭化物が付着する。29は外面に磨き調整を施した大壺か。内面には指頭圧痕が確認できる。30・31は細片で、壺壺類の体部破片を転用した陶製円盤の可能性がある。類例は平成15・16年度の駿河川中B遺跡本発掘調査でも複数確認されている。

32～35は近世越中瀬戸焼。32・33は壺の口縁部である。32は口径8.8cm、内外面に鋳釉を施す。33は口径7.0cmを測る。外面に鋳釉を施すが、下部の剥離が著しい。34・35は壺の底部である。34は底径10.0cmを測る。内外面に鋳釉を施し、外面に鉄釉がかかる。底外面には回転糸切り痕が残る。35は底径10.0cmを測り、内外面に鋳釉を施す。底外面には回転糸切り痕が残り、炭化物が付着する。

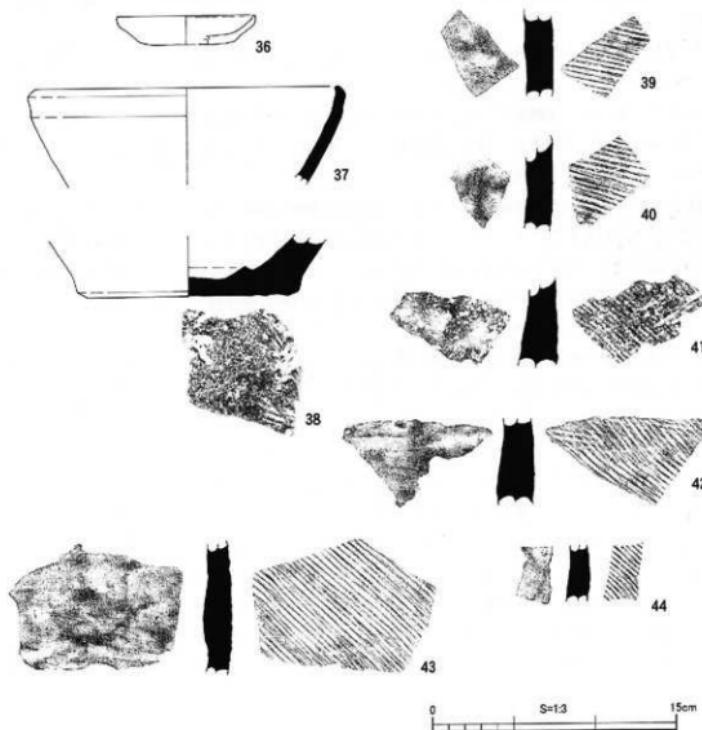


第4図 鞍川D遺跡遺物実測図(1) ($S = 1/3$)



第5図 鞍川D遺跡遺物実測図(2) (S=1/3)

病院用地代替地の調査では、中世土師器・中世珠洲焼など12点が出土した。そのうち9点を図示した。36は中世土師器皿である。非ロクロ成形で、口径8.4cm、器高1.8cmを測る。口縁端部が内湾する。37～44は中世珠洲焼である。37は片口鉢で、口径18.6cmを測る。器体が膨らみを持ち、口縁が内湾するもので、御目は施されない。吉岡編年でI～II期、12世紀後半から13世紀前半のものであろう。38は壺類の底部破片だが、著しく焼成不良で、灰白色を呈する。内面には強いナデの跡が残る。39～44は壺類の体部破片。41は著しく焼成不良で、灰白色を呈する。43は、同一個体が3点出土したうち1点を図示した。



第6図 鞍川D遺跡遺物実測図(3) (S=1/3)

第2節 鞍川中B遺跡

(1) 遺跡の概要

鞍川中B遺跡は、富山県教育委員会が一般国道415号（通称鞍川バイパス）の建設計画地、鞍川・大野・大野新地区を対象として、平成12年度に実施した分布調査で発見された遺跡である。分布調査では、周知の鞍川D遺跡、鞍川B中世墓のほかに新たな埋蔵文化財包蔵地の存在が3箇所で確認された。新たに確認された包蔵地はそれぞれKB-1遺跡、KB-2遺跡、KB-3遺跡と仮称された。そのうちKB-1遺跡の南側が鞍川中B遺跡である。

一般国道415号（鞍川バイパス）建設に先立ち、平成13年度に実施したKB-1遺跡の試掘調査では、2地点で遺構及び遺物包含層の存在を確認した。遺跡北側では、溝、流路などを検出した。遺物は土器片、近世磁器の計3点が出土した。遺跡南側では、黒色のシルト質土層の落ち込みの中から弥生中期の土器がまとまって出土しており、弥生時代の遺構ないし遺物包含層が残存しているものと考えた。そのほか溝、土坑を検出した。一方、遺構及び遺物包含層を確認していない地点は、土層の堆積から湿地帯が広がっていたものと判断した。試掘調査の結果、本発掘調査が必要な地区は、湿地帯を挟んで南北2地点に離れてしまうことになった。そのためKB-1遺跡を南北に分割し、それぞれ別遺跡として扱うこととした。遺跡名は所在地の小字「中」から取り、KB-1遺跡の北側を鞍川中A遺跡、南側を鞍川中B遺跡とした。

この試掘調査で鞍川中B遺跡とした範囲では、黒色シルト質土層の落ち込みから弥生中期の土器がまとめて出土したほか、溝、土坑を検出している。遺物は計199点出土した。内訳は弥生土器が177点、古代須恵器が2点、古代土師器が1点、中世珠洲続が6点、中世土師器が4点、近世陶磁器類が4点、時期不明土師器片が5点である。弥生土器はほとんどが黒色シルト質土の上層で出土している。その他の遺物は表土及び包含層での出土となる。

試掘調査の結果に基づき、平成15・16年度には本発掘調査を実施した。この調査では、弥生時代中期の河川跡が2本検出された。そのうちの1本は試掘調査で確認された黒色シルト土層の落ち込みである。河川跡からは、流木に混じって大量の弥生土器破片、石器などが出土した。また曲物状の樹皮製品を用いた水溜状遺構が流路北西側の川底から検出された。もし近辺に弥生時代の集落があったとすれば、調査区の北西側に広がっていた可能性が高い。

出土した弥生土器には壺・甕・鉢・高杯などがあり、口縁部を櫛描綾杉文、櫛描斜行短線文、櫛描刻み目文、刺突文、半裁竹管文などで加飾するものが多く含まれている。これらはおおむね弥生時代中期末の戸水B式に含まれるが、一部に中部高地の弥生中期後半に置かれる栗林式の模倣と考えられるものも見受けられる。

弥生時代以降の遺構として、農業用の溜池灌漑遺構と考えられる最大長6～14mを測る大形で不整形の土坑を11基確認している。溜池灌漑遺構からは15世紀前半頃から近世にかけての幅広い年代の遺物が出土しており、掘り直しをしながら長期間利用された様子がうかがわれる。

以上、鞍川中B遺跡は、弥生時代中期を主体とした遺跡で、近辺に集落が存在する可能性がある。また、中世から近世には周辺で水田耕作が営まれたものと推測される。

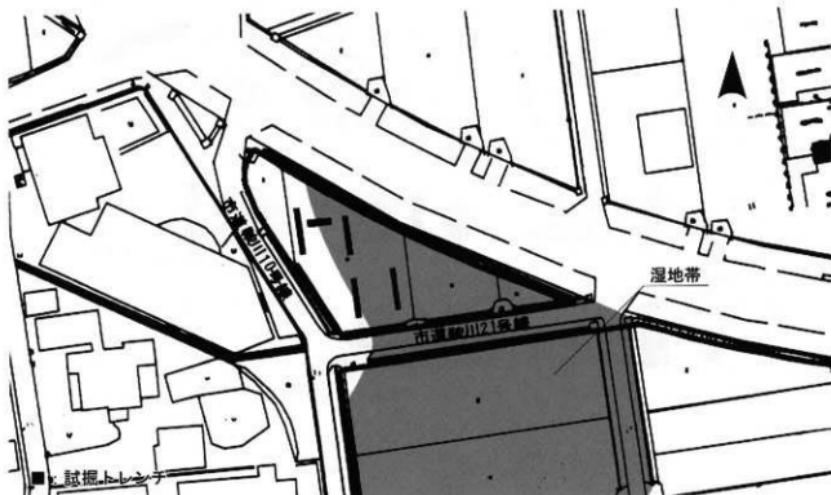
今回、試掘調査の対象としたのは鞍川中B遺跡の南東端で、調整池の建設が予定されている範囲である。なお平成13年度の試掘調査では、今年度調査対象地の北側に湿地帯跡が広がっていることが確認されている。

(2) 調査の状況（第7図・第3表）

5本の試掘トレンチを設定し調査を実施した。鞍川バイパス建設に先立つ試掘調査結果から、周辺は湿地帯である可能性も想定されたが、調査対象地の西側に遺構が遺存していること明らかとなった。遺構面である地山（Ⅲ層）は黄褐色の砂層で、耕作土直下に検出される地点もあった。遺物は、耕作土層（I層）と遺物包含層（II層）から23点出土した。検出された遺構はピット・溝等で、出土遺物は古代のものを中心に弥生時代・中世・近世のものがある。なお、遺構が検出された範囲から東側、鞍川D遺跡との間には湿地帯が広がっているものと推測した。

I層	耕作土	15~25cm	にぶい黄褐色砂質土
II層	遺物包含層	5~30cm	褐灰色砂質土・黒褐色砂質土
III層	遺構面・地山		黄褐色砂
	遺構埋土		黒褐色砂質土・灰黃褐色砂

第3表 鞍川中B遺跡 基本層序



第7図 鞍川中B遺跡試掘調査概要図 (S=1/1,000)

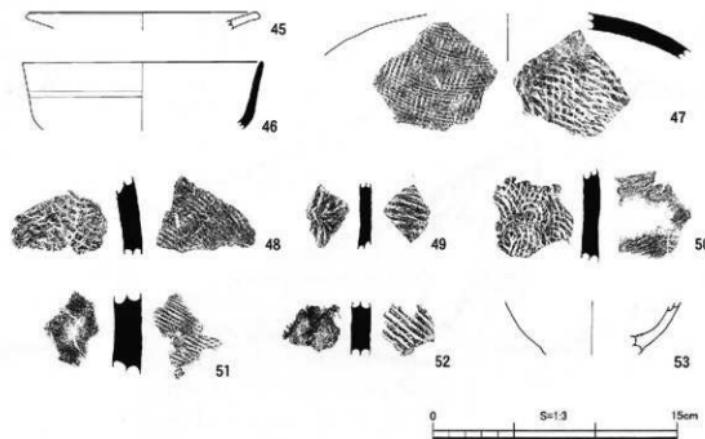
(3) 出土遺物 (第8図)

調査では、弥生土器・古代須恵器・中世珠洲焼・近世陶磁器など23点が出土した。そのうち9点を図示した。

45は弥生土器の壺類口縁部破片か。口径14cmを測る。

46～50は古代須恵器。46は杯類で、外面に2条の沈線がめぐる。口径14.8cmを測る。47は瓶類の破片で、外面は平行叩き目の上からカキメを施し、内面に同心円状當て具痕が残る。48～50は壺甕類の体部破片で、いずれも外面に平行叩き目、内面に同心円状當て具痕が残る。

51・52は中世珠洲焼の壺甕類体部破片である。53は瀬戸美濃の丸模か。内外面に灰釉を施す。



第8図 鞍川中B遺跡遺物実測図 (S=1/3)

第4章　まとめ

今回、鞍川地区を対象に実施した試掘調査の結果は次のとおりである。

1. 調査は、金沢医科大学氷見市民病院の建設に先立ち、建設予定地全体を対象として実施した。調査対象遺跡は鞍川D遺跡・鞍川中B遺跡の2遺跡、調査対象面積は約30,250m²、発掘調査面積は約700m²である。
2. 鞍川D遺跡では、調査対象地の広い範囲で遺構・遺物を確認した。検出した遺構は溝・土坑・ピット等である。出土遺物は、中世珠洲焼・中世土師器等、12世紀後半から13世紀前半が中心となる。鞍川バイパス建設に先立つ本発掘調査で確認された13世紀前半を主体とする集落が今回の調査区にも広がっている可能性がある。ただし、遺構の多くは、昭和30年代に実施された土地改良により上部が削平されているものと考えられ、遺存状態は良くない。また、国道415号北側の病院用地代替地では、調査対象地北西側に粘質土の落ち込みが検出され、その中から中世の遺物が出土した。これらの調査の結果、鞍川D遺跡は北側・南側・西側に範囲が大きく拡大することになった。
3. 鞍川中B遺跡では、調査対象地の西側で遺構・遺物を確認した。検出した遺構は溝・土坑・ピット等である。出土遺物は、古代須恵器を中心とし、そのほか弥生土器・中世珠洲焼・近世陶磁器などがある。
4. 以上の試掘調査の結果、鞍川D遺跡・鞍川中B遺跡とともに金沢医科大学氷見市民病院建設予定地内に遺構・遺物が分布することが確認された。特に鞍川D遺跡は、かねて予測していたとおり南側と西側に大きく広がることが明らかとなった(第9図)。主体となる時代は、鞍川D遺跡が12世紀後半から13世紀前半、鞍川中B遺跡が古代となる。

氷見市病院事業管理室側と氷見市教育委員会の協議の結果、鞍川D遺跡の遺構・遺物の分布範囲は駐車場の建設が計画されていることから、本発掘調査は不要と判断することになった。一方、鞍川中B遺跡の遺構・遺物の分布範囲は、調整池の予定地であり、保護対策を取る必要が生じた。調整池の移動も含めて氷見市病院事業管理室と再協議した結果、場所の移動は困難であるということであったため、本発掘調査を実施し記録保存とする方向で調整を進めた。最終的に、保護対象地の西側は調整池の面積を狭めて緑地帯とし、本発掘調査対象面積を減らすことになり、遺構・遺物の分布範囲の東側約330m²を本発掘調査の対象とすることになった。

5. 今年度、市民病院建設予定地の周辺で実施した分布調査では、新たに遺物の散布を確認した。その範囲は鞍川E遺跡(仮称)とした。鞍川E遺跡は、鞍川D遺跡の南東側に立地し、東側には縄文時代後期の鞍川寺田遺跡が所在する。面積は約5,300m²である。採集した遺物は土器の細片で、摩滅が激しく詳細な年代は不明である。鞍川E遺跡の周辺では、市道鞍川靈峰線の建設なども計画されているため、今後の建設事業の進捗によっては試掘調査等の実施も必要となろう。
6. 鞍川中B遺跡の本発掘調査は、本書の刊行に先立って平成21年10月20日から11月20日まで実施した。中世を主体として、古代から近世にかけての遺物が出土し、遺構としてはピット・溝・土坑などを検出した。試掘調査では古代主体と推測したが、その点若干の齟齬をきたすことになった。ただし、あくまで本書は試掘調査の報告書であるため、試掘調査で得られた成果の記載にとどめた。その点についてはご了承いただきたい。なお本発掘調査成果の詳細については、本書と同時に刊行される氷見市埋蔵文化財調査報告第57冊『鞍川中B遺跡Ⅱ 金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う発掘調査報告』を参照していただきたい。

平成21年度に実施した金沢医科大学氷見市民病院建設に先立つ鞍川地区の試掘調査の成果は以上である。鞍川D遺跡、鞍川中B遺跡については、一般国道415号の沿線に立地するということで、今後も各種の開発にさらされることになろう。だが、鞍川という地域自体、室町・戦国時代の国人士豪、鞍河氏の本拠地であったとも考えられる場所であり、氷見地域の中世を捉えるうえで大きな意味を持つ場所であったことは疑いない。氷見市教育委員会としては、周辺の開発の動向に注視して遺跡の適切な保護に努めていきたいと考えている。関係各機関に対しても、これまで以上のご理解とご協力を切にお願いするしだいである。

引用・参考文献

- 児島清文 1962 『氷見市地名考』 氷見報知新聞社
財團法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所 1996 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』 一東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ』 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集
氷見市 1998 『氷見市史』 3 資料編1 古代・中世・近世（1）
氷見市 1999 『氷見市史』 9 資料編7 自然環境
氷見市 2000 『氷見市史』 6 資料編4 民俗・神社・寺院
氷見市 2002 『氷見市史』 7 資料編5 考古
氷見市 2008 『氷見市史』 1 通史編1 古代・中世・近世
氷見市教育委員会 2005 『鞍川中A遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅰ』 氷見市埋蔵文化財調査報告第41冊
氷見市教育委員会 2006 『鞍川D遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅱ』 氷見市埋蔵文化財調査報告第44冊
氷見市教育委員会 2006 『鞍川中B遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅲ』 氷見市埋蔵文化財調査報告第45冊
氷見市教育委員会 2010 『鞍川中B遺跡Ⅱ 金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う発掘調査報告』 氷見市埋蔵文化財調査報告第57冊
氷見市立博物館 2006 『特別展 竹里山の謎にせまる 一山城・寺院・鞍河氏』
廣瀬直樹 2005 『鞍川D遺跡出土の丸木舟 一出土丸木舟に残る加工痕・使用痕への試論―』 『船をつくる、つたえる和船建造技術を後世に伝える会調査報告書』
廣瀬直樹 2007 『鞍川D遺跡出土の丸木舟に関する覚え書き』 『氷見市立博物館年報』 第25号
吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉岡弘文館
和船建造技術を後世に伝える会 2008 『氷見の和船 和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅱ』



第9図 開発区域周辺遺跡分布図 (S=1/3,000)



図版 1 遺跡周辺空中写真(1947年米軍撮影) 国土地理院



図版2 遺跡周辺空中写真(1963年撮影) 国土地理院



1



2

図版3 1. 調査区遠景(西から) 2. 調査区近景(西から)



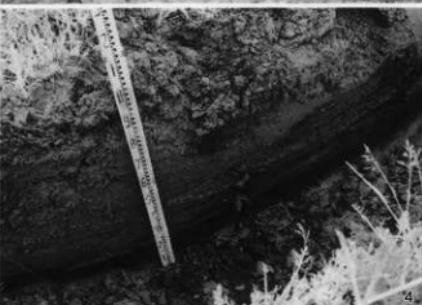
図版4 1. 調査区遠景(東から) 2. 調査区近景(北から)



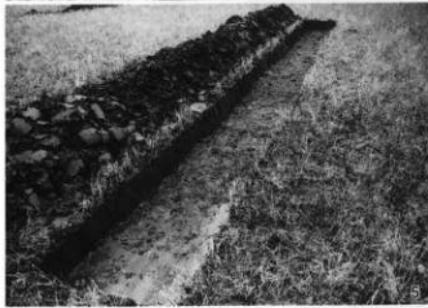
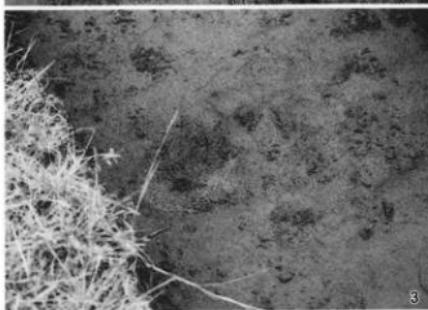
図版5 1. 粕川D遺跡調査附近景(北西から) 2. 粕川D遺跡調査附近景(北東から) 3. 遺構検出状況(T14・溝か)
 4. 遺構検出状況(T16・土坑か) 5. 遺構検出状況(T18・土坑) 6. 遺構検出状況(T19・土坑か)
 7. 遺構検出状況(T22・土坑) 8. 遺構検出状況(T23・土坑)



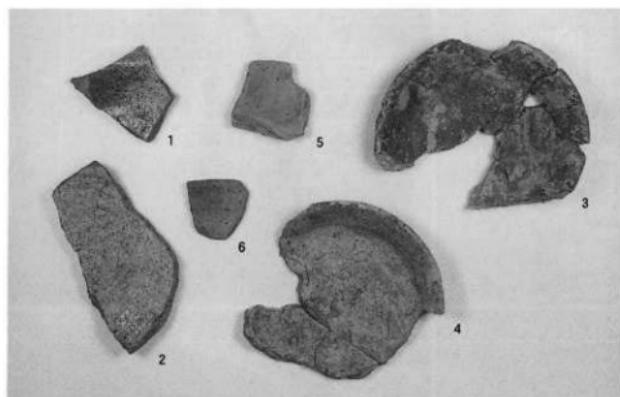
図版 6 1. 造構検出状況(T26・土坑) 2. 造構検出状況(T30・土坑) 3. 造構検出状況(T32・ピット)
4. 造構検出状況(T34・土坑) 5. トレンチ完掘状況(T14) 6. トレンチ完掘状況(T23)
7. トレンチ完掘状況(T28) 8. トレンチ完掘状況(T33)



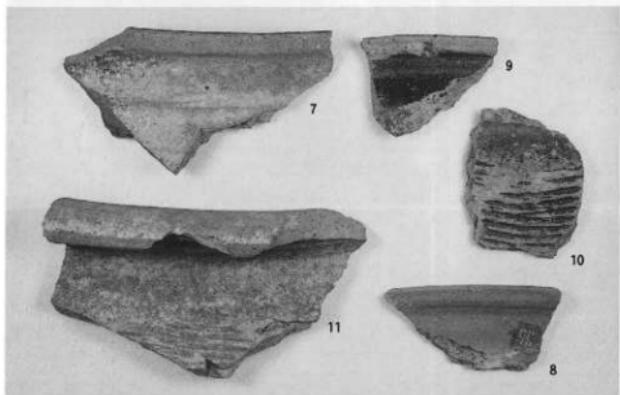
図版7 1. トレンチ完掘状況(T38) 2. 湿地跡堆積状況(T38) 3. トレンチ完掘状況(T41) 4. 湿地跡堆積状況(T41)
5. 稲川D遺跡(宅地予定地)近景(西から) 6. 宅地予定地試掘坑完掘状況(T1)
7. 宅地予定地試掘坑完掘状況(T5) 8. 宅地予定地試掘坑落ち込み検出状況(T7)



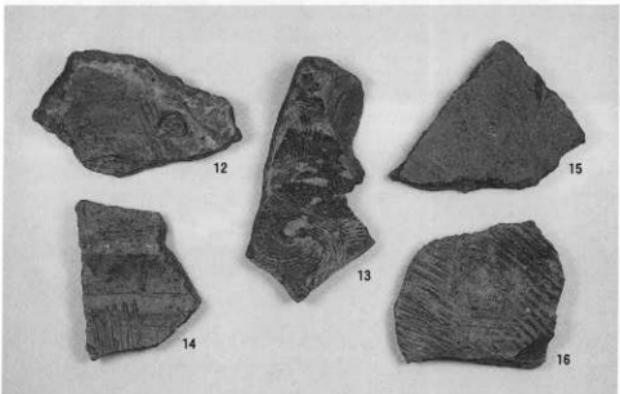
図版 8 1. 鞍川中B遺跡調査着手前近景(東から) 2. 造構検出状況(T42・溝か) 3. 造構検出状況(T42・ピット)
4. 造構検出状況(T42・土坑) 5. トレンチ完掘状況(T45・湿地跡)
6. トレンチ完掘状況(T46・手前側が湿地跡) 7・8. 作業風景



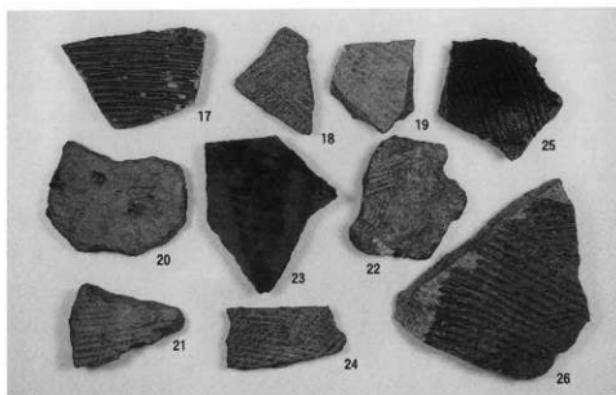
病院建設予定地出土遺物（1）
古代須恵器・中世土師器



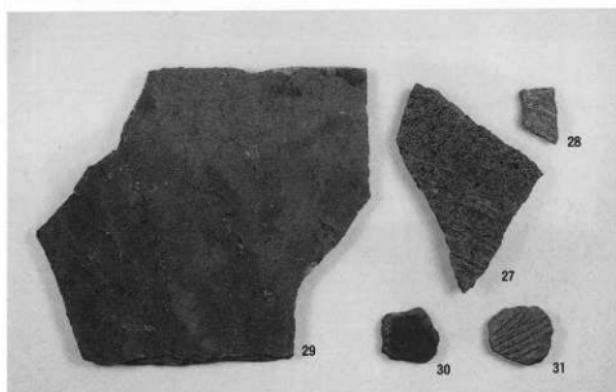
鞍川D遺跡
病院建設予定地出土遺物（2）
中世珠洲焼（壺蓋類）



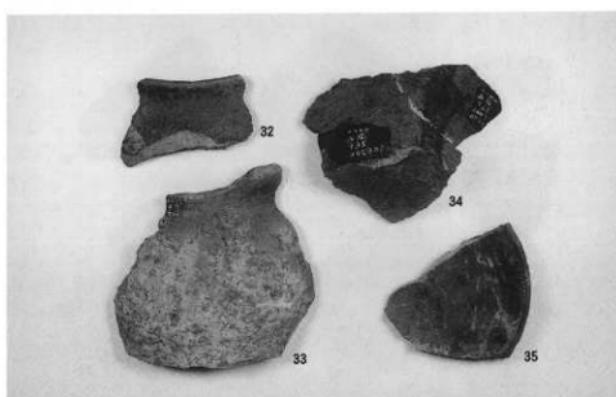
鞍川D遺跡
病院建設予定地出土遺物（3）
中世珠洲焼（擂鉢・壺蓋類）



鞍川D遺跡
病院建設予定地出土遺物（4）
中世珠洲焼（壺瓶類）

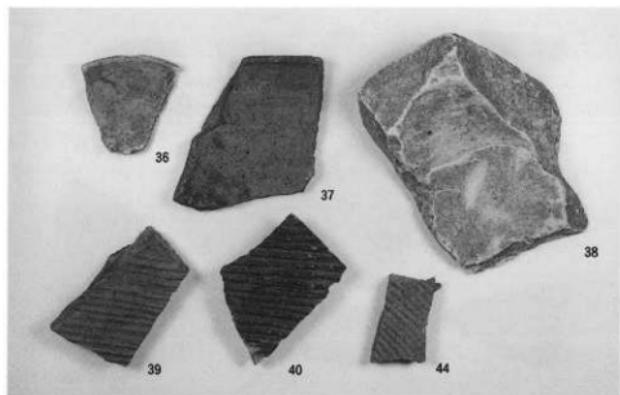


鞍川D遺跡
病院建設予定地出土遺物（5）
中世珠洲焼（壺瓶類ほか）

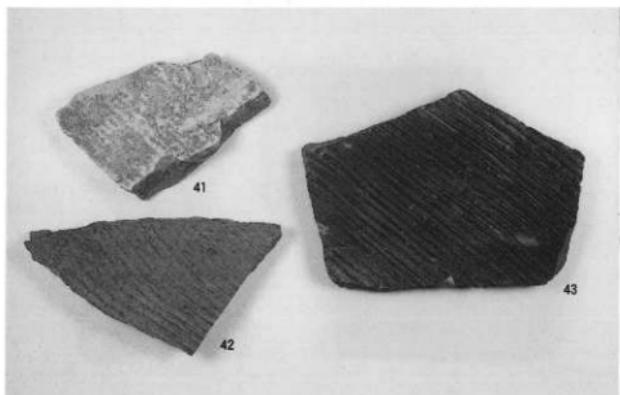


鞍川D遺跡
病院建設予定地出土遺物（6）
近世越中瀬戸焼

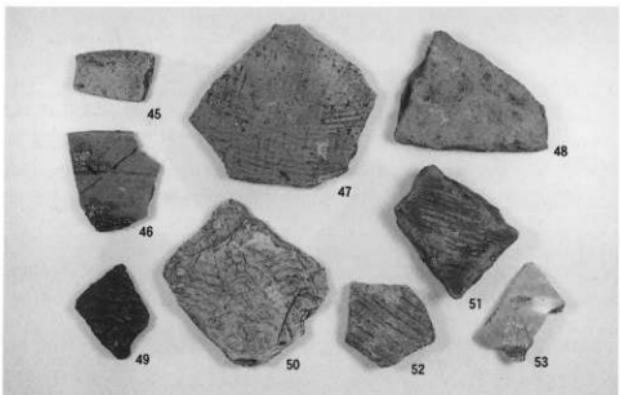
図版10 遺物写真（2）



鞍川D遺跡
宅地予定地出土遺物（1）
中世土師器・中世珠洲焼



鞍川D遺跡
宅地予定地出土遺物（2）
中世珠洲焼



鞍川中B遺跡出土遺物
弥生土器・古代須恵器ほか

図版1-1 遺物写真（3）

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 卷次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	かなざわいかだいがくひみしみんびょういんけんせつじぎょうにともなうしぐつちょうさかいよう 金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う試掘調査概要 鞍川D遺跡 鞍川中B遺跡 水見市埋蔵文化財調査報告 第55冊 廣瀬 直樹 氷見市教育委員会 〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号 TEL0766(74)8215 2010年3月19日										
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° °'	東経 ° °'	調査期間	調査面積	調査原因			
		市町村	遺跡番号								
鞍川D遺跡	氷見市鞍川	16205	250	36° 51' 10"	136° 58' 10"	20090518 ～ 20090522	670m ² 30m ²	金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う事前調査			
				36° 51' 13"	136° 58' 00"						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項						
鞍川D遺跡	集落	古代 中世 近世	溝 土坑 ピット	古代須恵器 中世土師器 中世珠洲焼 近世越中瀬戸	12世紀後半～13世紀前半を主体とする遺物が出土し、遺跡が北・南・西に拡大。						
鞍川中B遺跡	散布地	弥生 古代 中世 近世	溝 土坑 ピット	弥生土器 古代須恵器 中世珠洲焼	古代を中心とする遺物が出土。						
要約	金沢医科大学氷見市民病院の建設に先立って、鞍川D遺跡・鞍川中B遺跡の試掘調査を実施した。鞍川D遺跡では、周知の遺跡範囲を超える広い範囲で溝・土坑・ピット等を確認し、12世紀後半から13世紀前半を主体とする遺物が出土した。この調査の結果、鞍川D遺跡の範囲は北・南・西に大きく拡大することになった。なお、調査対象地の北西、鞍川中B遺跡との間には湿地帯が広がっているものと見られる。一方、鞍川中B遺跡では、溝・ピット等を確認し、古代を中心とする遺物が出土した。鞍川中B遺跡については、調整池の建設が予定されているため、本発掘調査で対応することになった。										

平成22年3月17日 印刷

平成22年3月19日 発行

氷見市埋蔵文化財調査報告第55冊

金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う試掘調査概要

鞍川D遺跡

鞍川中B遺跡

編集・発行 氷見市教育委員会
〒935-0010 富山県氷見市本町4番9号
☎0766(74)8215 (生涯学習課)

印 刷 有限会社 ひふみ印刷社